

SDGsに貢献する応用生物科学部

応用生物科学部 学部長 光永 徹



新型コロナウイルスによる影響が長引き、大変な状況が続いています。各務同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素は同窓会活動に對しまして格別のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

さて私こと、学部長を拝命して2年目をむかえ、学部執行部の先生方や事務方に支えられ、学部教職員のたゆまない活動支援を受けて、学部の教育・研究の発展に邁進しているところです。

昨年度は、新型コロナウイルスの対応に戸惑いながら、一定期間の学内閉鎖やオンライン授業などこれまで経験したことのない未曾有の事態に直面いたしました。今年度は、昨年度得た経験をもとに、新しい生活の様式や教育の様式を昨年以上に積極的に取り入れながら、教育の質の保証を維持できるように教職員学生力を合わせて取り組んでいます。

さて、昨年の同窓会報でもご紹介させていただいたように、昨年4月から

各務同窓会報



岐阜大学

岐阜大学と名古屋大学は法人統合し、

一法人複数大学制度のもと、東海国立大学機構（東海機構）として全国に先がけて走り出しました。また東海機構直轄の拠点として「農学教育研究拠点」が設置されており、名古屋大学生命農学研究科との補完教育の充実化を見据えて、少子化に伴う学力の低下を抑制するための魅力的な教育プログラムを策定し、優秀な人材確保を念頭に置いた戦略的教育を実施するための教育研究プログラムを運用しているところでもあります。そのプログラムの一つにデータサイエンスを駆使したスマート農学の構築を掲げています。お陰様で、この2年間で8千万円の予算を東海機構からいただき、スマート農業の実践実習の場として「リモート統合環境システム温室」を柳戸農場に設置することができました。これによって、岐阜大学と名古屋大学の教職員学生による共同実習や共同研究などが今後活発に推進されることが期待されます。さらに柳戸農場では、昨年度の3次補正予算1億4千万

円規模の「産業動物臨床実習施設」が先日完成し、フィールドセンター施設のさらなる充実を図ることができました。これも岐阜大学における農業の地域連携を東海機構が大いに期待していることを意味するものであります。是非、同窓生の皆様におかれましてもお時間がございましたら、これらの施設を見学していただければ幸いです。

地域連携におきましては、全国農業協同組合連合会岐阜本部、岐阜県そして岐阜大学が連携して、美濃加茂農場に「飛騨牛繁殖研修センター」を設置しています。今年で2期生を迎え、昨年度の研修生を含め5人の研修生による研修事業が進められています。

2年間の研修で繁殖と肥育の技術や知識・衛生管理を学び、担い手の育成と飛騨牛減少の歯止めを目指しています。また学内に設置されています岐阜県食品科学研究所、柳戸農場に隣接する岐阜県中央家畜保健衛生所との教育研究連携は、年々充実を見せている状況であります。さらに今年4月に岐阜県農業技術センターとの間で、「連携大学院方式による教育研究協力に関する協定」を締結しました。これによって、大学院生（修士課程）の県農業研究への直接参画や、県農業技術センター研究員が主指導教員として大学院生へ指導を行うことができるようになります。大学院学生の実践教育の充実が可能となります。

現在、応用生物科学部では、校舎の老朽化対応と耐震補強を目的として大改修工事が進められていますが、一昨年の第一期工事（共同獣医学科）と昨年の第二期工事（応用生命科学課程）に引き続き、第三期工事（生産環境科学課程の一部と事務室等）が終了いたしました。あと1年で第四期を含めたすべての工事が終了する予定です。是非ご出身の新しくなった研究室を一度お訪ねいただき、学生達と懇談していただければ幸いです。

将来予測される地球規模での食糧問題と環境問題を克服し、人類の持続的生存を保障するとともに、人類と生物との共存を実現しながら、生物資源の開発・利用を図るために農学（応用生物科学）の果たす役割は極めて重大になってまいります。これまでの専門分化した科学知の領域を超えて、地球規模での困難な問題を解決するための新たな知的創造活動を展開し、新たな体系化を構築して、SDGsの推進にも貢献できる学部を目指したいと考えます。応用生物科学部長として、高まりつつある新しい「農学」への期待と重要性をこの東海地域から「農学教育研究拠点」を発展させることで応えていく所存であります。今後とも同窓生の皆様からの温かいご支援とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

98周年
ご挨拶

各務同窓会会長

柵木

利昭（V大16）



各務同窓会の皆様には二年目のコロナ禍如何お過ごしでしょうか？

平素は各務同窓会の事業、活動にご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

一九二三年、関東大震災の年に農学部、応用生物科学部の前身である官立岐阜高等農林学校が各務野の台地に創立され九八周年を迎えた今年は、何と言っても二回目の東京五輪が新型コロナウイルスのパンデミック、東京に緊急事態宣言が発出される中二百余りの国と地域の選手が集い一年遅れの七月二三日からはば無観客で開催されたことでしょう。東日本大震災からの復興五輪の理念は薄れ、人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証にもならず、多様性と調和の旗印の下ワクチン接種が遅れる中、馬の轡ならぬマスクをして行動規制するしか打つ手がなく、日本の獲得メダル数（過去最高の五八個）と競うように連日新規感染者数を更新し、全国で一日当たり一万五千人、東京で五千人を超え大会期間中に三倍と急増しました。

五七年前の昭和三十九年に開催され

た先の東京オリンピックでは戦後復興の旗印の下、昭和二〇年八月六日広島県三次市生まれの早大一年生酒井義則氏の聖火点火、東洋の魔女の回転レシーブなどが鮮明に思い出されます。皆様は今回のオリンピック、パラリンピックでは輝くアスリートの活躍にどのような感動と勇気をもられたでしょうか？

岐阜大学校友会（仮称）設置案が大学側から提唱されています。他でも触れられているかとは思いますが、各務同窓会と深く関わる事案なのでここでもその概要を紹介させていただきます。私的な各務同窓会とは異なり校友会の会長には学長が充てられる公的な組織であります。校友会は岐阜大学の卒業生、在学生、後援会員、教職員等からなる会員相互の交流を図り、併せて会員と岐阜大学との連絡を密にし、大学の発展及び社会貢献に資することを目的とする。その主な活動は、同窓会員等に向けた情報発信事業、同窓会等の組織及び活動支援事業（名簿管理システムの提供による同窓会の運営の効率化、経費削減）であります。校友会は大学の組織として運営経費は大学が負担し、交流会員からの会費は徴収されません。岐阜大学基金（寄付金）の原資を募り、それを活用していろいろな支援をする、同窓会でやりたいことを支援するのが校友会です。校友会は岐阜大学にシン

パシーを持つてくれる人を応援団として公的に組織し、三階建て（校友会、同窓会連合会及び同窓会）の上位が下位を取り込むような組織ではなく、それぞれの力を合わせて困難ごとや強みを活かしたいというのが大学側の思いです。一部同窓会では校友会の設置に反対をしています。二〇二三年六月三日に予定されている農学部、応用生物科学部の百年につきましては学部と同窓会からなる創立百周年記念事業会を中心に計画を進めています。同窓会の皆様に於かれましてもご意見やご提案等をいただければ幸いです。

ワクチン接種が進みやつと出口が見えてきました、啓蟄のころには巣ごもりの穴から出てマスクを外して自由奔放に活動し、我等が前途多望の春を迎えたいものです。（岐阜大学応用生物科学部オリジナルの清酒「多望の春 岐山／曲阜」は通販でお求めできます。）

幹事長からのご挨拶

幹事長 鈴木 正嗣



今年度から幹事長を務めさせて頂くことになりました

た鈴木（共同獣医学科野生動物医学研究室）と申します。なにぶんにも

不慣れた重責を仰せつかることになり、会員の皆様にご迷惑とご心配をかけることもあろうかと思ひます。今年に入ってからコロナ禍は終息せず、誠に残念ながら6月に予定しておりました各務同窓会代表委員会は、10月30日へと延期させて頂きました。しかしながら、本稿執筆時

も東海三県に緊急事態宣言が適用されている状況にあります。今後の見通しも立て難い状況にあります。是非とも開催に至り皆様にお目にかかれまことを願ってやみません。再来年に迫ってまいりました100周年記念事業に関しましては、本会報23ページならびに同封冊子（岐阜大学基金特定事業岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業）にてご案内とお願いを記載させて頂きました。既に皆様からは多額のご寄附を頂いているところではあります。本記念事業への寄附は岐阜大学基金特定事業の対象とされたことから、税制上の優遇を受けられるようになりました。協賛を頂きました法人におかれましては、記念式典での配付資料に広告を掲載致します。多くの皆様のご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。冊子には郵便振替用の振込取扱票を挟み込んでありますので、適宜ご利用ください。岐阜大学基金のサイト（<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>）からの手続きも可能です。

また、100周年記念事業の一環として、同窓会活動活性化事業も実施することに致しました。この事業は、支部における会員の減少や高齢化を受けて創設されたもので、新規会員を増加させるための取り組み等を進める支部のサポート等を目的としております。詳細な案内は、各支部宛てに送付の予定ですので、積極的に活用頂ければ幸いです。

最後にお伝えするのは、同窓会書庫の移動と整理についてです。以前の卒業論文や修士論文等を保管しておりました同書庫では、応用生物科学の大規模改修に伴いE棟西側へと移動しました。この機会に収蔵資料の配列方法等を検討し、閲覧し易いような工夫も重ねております。近く皆様にもご覧頂ける状況となりますので、来学の機会があれば是非ともお申し出ください。

末筆ではございますが、皆様のおすすめのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

令和3年度各務同窓会代表委員会を断念

令和3年度 各務同窓会代表委員会中止のお知らせ

今年度の各務同窓会役員会は、岐阜県に緊急事態宣言が発令されていることを鑑みて中止とし、書面会議にて執り行いました。書面会議では、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、昨年度に引き続き令和3年度各務同窓会代表委員会の開催も断念することとなりました。そのため、代表委員会で議論される、年次計画については各支部会に書面でご連絡し、ご意見を伺うこととなりますので、よろしくお願いいたします。各支部においても昨年度と同様に活動ができない状態が続いていると思います。今しばらくは我慢の時期が続くと思いますが、次年度には活動が再開できると思われれます。また、2023年には100周年記念事業が予定されています。今後とも、会員の皆様には各務同窓会の活動にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和2年度 支部総会開催状況

支 部 名	期日	出席者
東京E科会		中止
東京E科現役会		
長野県		延期
愛知県各務会・愛知各務会		
愛知県高等学校教員		
岐阜県高等学校		中止
石川県		
岐阜		中止
愛知県職員林務関係同窓会		延期
愛知県職員農業関係各務同窓会		
岡山県		
江南		
中濃		
徳島鳴門会		
岐阜県職		中止
岐阜市役所		

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催延期又は中止の連絡のみで、開催する支部はありませんでした。

令和3年度岐阜大学各務同窓会役員

名 誉 会 長	光 永 徹	
会 長	柵 木 利 昭	(V大16)
副 会 長	正 村 洋一郎	(F大25)
	伏 見 知 彦	(C大18)
	北 川 精 一	(V大18)
	川 島 光 夫	(P大7)
	平 工 孝 義	(A大25)
	村 山 巖	(E大23)
	箕 輪 光 顕	(A大20)
相 談 役	杉 山 幹 夫	(M1)
	新 藤 秀 逸	(SP21)
	中 村 孝 雄	(N大7)
	後 藤 悦 男	(V大2)
	水 野 隼 人	(C大15)

令和3年度幹事長、幹事及び監事

幹事長	鈴木 正嗣	(共同獣医学科)
幹 事	(庶務・幹事長代理)	只野 亮 (生産環境科学課程)
	(事業)	長岡 利 (応用生命科学課程)
	(会計)	前田 貞俊 (共同獣医学科)
監 事	石田 秀治	(応用生命科学課程)
	西村 直正	(生産環境科学課程)

令和2年度各務同窓会決算報告

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会費	2,365,000	1,376,300	△ 988,700
年会費	2,310,000	1,310,000	△ 1,000,000
	55,000	66,300	△ 11,300
2. 利子	23	11	△ 12
3. 雑収入	500,000	580,434	80,434
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
当期歳入合計(A)	6,295,023	5,186,745	△ 1,108,278
前年度繰越収支差額	244,588	244,588	0
歳入合計(B)	6,539,611	5,431,333	△ 1,108,278

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事務費	1,989,500	1,824,312	△ 165,188
消耗品費	10,000	1,163	△ 9,294
人件費	1,800,000	1,700,000	△ 100,000
通信費	50,000	51,729	2,186
旅費	26,000	29,000	3,000
終身会費返金	100,000	40,000	△ 60,000
雑費	3,500	2,420	△ 1,080
2. 会議費	1,153,000	2,405	△ 1,150,595
代表委員会費	350,000	0	△ 350,000
代表委員会旅費	800,000	0	△ 800,000
役員会費	3,000	2,405	△ 595
3. 事業費	2,330,000	2,320,059	△ 9,941
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会報郵送費	900,000	901,250	1,250
会報発送雑費	780,000	793,149	13,149
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	15,660	△ 24,340
4. 名簿関係費	7,500	2,560	△ 4,940
発送費	7,500	2,560	△ 4,940
5. 慶弔費	50,000	19,426	△ 30,574
6. 支部総会派遣費	500,000	0	△ 500,000
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	0	△ 150,000
8. 予備費	70,000	0	△ 70,000
当期歳出合計(C)	6,250,000	4,168,762	△ 2,081,238
当期収支差額(A)-(C)	45,023	1,017,983	972,960
次期繰越収支差額(B)-(C)	289,611	1,262,571	972,960

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終身会費	4,670,000	2,620,000	△ 2,050,000
新入生分	4,620,000	2,600,000	△ 2,020,000
卒業生分	50,000	20,000	△ 30,000
2. 雑収入	0	0	0
3. 利子	6,075	5,319	△ 756
当期歳入合計(A)	4,676,075	2,625,319	△ 2,050,756
前年度繰越収支差額	56,085,641	56,085,641	0
歳入合計(B)	60,761,716	58,710,960	△ 2,050,756

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
2. 振込料	1,000	880	△ 120
当期歳出合計(C)	3,431,000	3,230,880	△ 200,120
当期収支差額(A)-(C)	1,245,075	△ 605,561	△ 1,850,636
次期繰越収支差額(B)-(C)	57,330,716	55,480,080	△ 1,850,636

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	0	0	0
2. 利子	8	17	9
3. 募金	1,000,000	2,111,000	1,111,000
当期歳入合計(A)	1,000,008	2,111,017	1,111,009
前年度繰越収支差額	2,513,547	2,513,547	0
歳入合計(B)	3,513,555	4,624,564	1,111,009

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事務費	100,000	2,088	△ 97,912
2. 会議費	100,000	1,863	△ 98,137
3. 旅費	120,000	12,228	△ 107,772
4. 事業費	100,000	92,323	△ 7,677
5. 雑費	50,000	20,233	△ 29,767
当期歳出合計(C)	470,000	128,735	△ 341,265
当期収支差額(A)-(C)	530,008	1,982,282	1,452,274
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,043,555	4,495,829	1,452,274

4. 資産現在高

(単位：円)

項目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	244,588	1,262,571
2. 基本金特別会計	56,085,641	55,480,080
3. 百周年記念事業	2,513,547	4,495,829
合計	58,843,776	61,238,480

5. 資産保管状況

(単位：円)

項目	一般会計	基本金会計	百周年記念事業会
1. 現金	15,744		
2. 普通預金			
大垣共立銀行			
十六銀行	1,208,030	1,868,450	2,405,062
三井住友信託銀行		3,571,233	
郵便局	38,797		
みずほ銀行		2,583,551	
3. 定期定期貯金			
大垣共立銀行		9,613,081	
十六銀行		21,843,765	
三井住友信託銀行		16,000,000	
4. 振替貯金	0	0	2,090,767
合計	1,262,571	55,480,080	4,495,829
総計		61,238,480	

令和3年度各務同窓会予算(案)

収支予算書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 会費	2,515,000	2,365,000	150,000
年会費	2,460,000	2,310,000	150,000
	55,000	55,000	0
2. 利子	25	23	2
3. 雑収入	600,000	500,000	100,000
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,430,000	0
当期歳入合計(A)	6,545,025	6,295,023	250,002
前年度繰越収支差額	1,262,571	244,588	1,017,983
歳入合計(B)	7,807,596	6,539,611	1,267,985

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 事務費	1,989,500	1,989,500	0
消耗品費	10,000	10,000	0
人件費	1,800,000	1,800,000	0
通信費	50,000	50,000	0
旅費	26,000	26,000	0
終身会費返金	100,000	100,000	0
雑費	3,500	3,500	0
2. 会議費	1,153,000	1,153,000	0
代表委員会費	350,000	350,000	0
代表委員会旅費	800,000	800,000	0
役員会費	3,000	3,000	0
3. 事業費	2,330,000	2,330,000	0
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会報郵送費	900,000	900,000	0
会報発送雑費	780,000	780,000	0
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	40,000	0
4. 名簿関係費	7,500	7,500	0
発送費	7,500	7,500	0
5. 慶弔費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	500,000	500,000	0
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8. 予備費	70,000	70,000	0
当期歳出合計(C)	6,250,000	6,250,000	0
当期収支差額(A)-(C)	295,025	45,023	250,002
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,557,596	289,611	1,267,985

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 終身会費	4,970,000	4,670,000	300,000
新入生分	4,920,000	4,620,000	300,000
卒業生分	50,000	50,000	0
2. 雑収入	0	0	0
3. 利子	1,209	6,075	△ 4,866
当期歳入合計(A)	4,971,209	4,676,075	295,134
前年度繰越収支差額	55,480,080	56,085,641	△ 605,561
歳入合計(B)	60,451,289	60,761,716	△ 310,427

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,430,000	0
2. 振込料	1,000	1,000	0
当期歳出合計(C)	3,431,000	3,431,000	0
当期収支差額(A)-(C)	1,540,209	1,245,075	295,134
次期繰越収支差額(B)-(C)	57,020,289	57,330,716	△ 310,427

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	前年度予算額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	0	0	0
2. 利子	44	8	36
3. 募金	1,000,000	1,000,000	0
当期歳入合計(A)	1,000,044	1,000,008	36
前年度繰越収支差額	4,495,829	2,513,547	1,982,282
歳入合計(B)	5,495,873	3,513,555	1,982,318

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	前年度予算額	比較増△減額
1. 事務費	100,000	100,000	0
2. 会議費	100,000	100,000	0
3. 旅費	120,000	120,000	0
4. 事業費	100,000	100,000	0
5. 雑費	50,000	50,000	0
当期歳出合計(C)	470,000	470,000	0
当期収支差額(A)-(C)	530,044	530,008	36
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,025,873	3,043,555	1,982,318



学園だより

課程等の近況

◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、この大変な社会状況の中ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。令和3年度も課程長として、分子生命科学コース長の中川寅教授、食品生命科学コース長の矢部富雄教授のご協力を頂きながら本課程の発展に尽力したいと思ひます。皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

当課程は、本年3月に学部卒業生86名を送り出し、そのうち48名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は57名で、そのうち7名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に81名の新入生及び5名の3年次編入学生を迎え入れました。大学院修士課程には令和元年度秋季入学生4名を加えて61名が入学しています。

瀬笑子先生（生物有機化学）が教授に昇任されました。同時に、学部教学委員長の重責も担って頂いています。また、同じく4月1日付で、北口公司先生（食品免疫学）と島田敦広先生（生体分子機能学）が准教授に昇任されました。一層のご活躍を期待しています。

1件、嬉しいお知らせがあります。昭和47年1月から平成16年3月までの32年の長きにわたるご指導頂いた柘植治人先生が、食品栄養学（水溶性ビタミンの栄養生理・生化学）の発展への貢献により、令和3年春の叙勲（瑞宝中綬章）を受けられました。学部での伝達式に同席させて頂きましたが、在職中と全く変わらず、お元気そのものでした。

コロナ禍によって大学教育も大きな影響を受けていますが、岐阜大学では7月と8月に職域接種が行われ、感染防止に留意しながらも、後期からは従前の教育に戻るのではと思っております。

◆生産環境科学課程

末筆乍ら、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。
(石田秀治)

東京五輪開催の中で職域接種も進み、後期は対面講義への完全移行が予定されています。学部棟の改修は大詰めを迎え、35年を経た校舎は安全性、快適性、機能性を取り込んだつくりとなり、学生・教職員一同、新たな一歩を踏み出して行ける雰囲気を感じています。同窓会からのご支援により、学生居室、多目的室を整備させていただきました。生まれ変わった校舎に、ぜひ一度足を運んでいただければ幸いです。

本年は、向井譲教授、山本謙也准教授が定年退職されます。コロナの状況を見据えながらとなりますが、向井教授の最終講義は来年3月2日に予定しております。一方、平松研教授が連合農学研究科長、山田邦夫教授が副学部長、山本朱美教授が学部長補佐として学部、研究科の運営に尽力しております。昨年度終了時には、後藤祐子さん（学部長表彰）、上村岳斗さん（同窓会長表彰）、丸山春花

さん（学長表彰）が表彰されました。丸山さんは、インド工科大学グワハティ校との国際連携食品科学技術専攻の第一期生です。4月には、梶川千賀子教授、乃田圭吾准教授が、6月には落合正樹産学連携准教授がそれぞれ、昇任されました。本年は多くの先生が、研究に基づく表彰を受け、またトップジャーナルに成果を公表しました。大西建夫准教授（水文・水資源学会学術出版賞）、梶川千賀子教授（岐阜県食の安全・安心功労者）、山根京子准教授（辻静雄食文化賞）、土田浩二教授（米国科学アカデミー紀要掲載）、松村秀一教授（サイエンス誌掲載）によるものなどです。

(小山博之)

◆共同獣医学科

新型コロナウイルス感染症は一向に終息する兆しはなく、各務同窓会の皆様におかれましては、この災禍にあつてご苦労も多いことと拝察致しております。昨年度に続き、令和3年度も学科長を拝命致しました。ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

共同獣医学科の現況をお知らせ致します。本学科は9年目に入り、今年度は69名（岐阜大学32名（男性10名、女性22名）、鳥取大学37名（男性14名、女性23名））の新入生を迎えました。出身地は愛知県18名、岐阜県6名、静岡県、大阪府、兵庫県、岡山県各3名などであり、これら6府県で半数を超え、愛知県からの入学者が多いのが特徴です。

また、3月には第3期生67名（岐阜大学30名、鳥取大学37名）が卒業しました。2月に実施された獣医師国家試験では、岐阜大学の現役受験生30名のうち25名が合格し、鳥取大学は37名全員が合格しました。岐阜大学では平成30年から3年連続して現役受験生全員が合格しており、過去20年間、全国に16ある国公私立獣医系大学で3年連続での全員合格は岐阜大学だけであつただけに、今回は残念な結果となりました。3年度の卒業生は気を引き締めて取り組むことと思ひます。新たに獣医師となつた62名が、今後、それぞれの分野で活躍されることを期待しております。

教員人事では、令和2年12月

各務同窓会報

1日付けで人獣共通感染症学研究室の准教授に正谷達磨先生が着任しました。また、獣医分子病態学研究室の助教であった川部美史先生は、令和3年4月から附属動物病院の外科診療科で常勤獣医師として勤務しております。

共同獣医学科では、国際通用性・社会性豊かな獣医師養成を目指して、教育研究環境のさらなる改善充実を目指して参ります。この状況が一日でも早く終息へ向かいますことと、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(共同獣医学科長 鬼頭克也)

◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

コロナ禍も2年目になり、悪い意味で慣れてきた感はあるですが、入学試験、入学式、農学特別ゼミナール、公開論文発表会、学位授与式など、あらゆる行事に依然として制限がかかっており、本来の日常に戻るには

まだまだ時間がかかりそうです。連合農学研究科においてはまだ感染者が出ていないというのが不幸中の幸いでしょうか。7月にはワクチンの職域接種が始まりましたので、もうしばらくの辛抱と耐えているところです。

連合農学研究科では、昨年度10月より応用生物科学部学務係に異動された中峰明春係長の後任として、青木孝一郎氏を連合農学係長に迎えました。中野浩平研究科長補佐(専任教員)、矢部富雄研究科長補佐(国際担当)、千原英司特任教授(キャリアパスコーディネータ)、野村友里連合大学院事務室長、そして今井健太郎、高橋敦子、戸本悦子、栗本薫乃、伊藤輝美の各氏は変わらず研究科の管理運営に努めております。研究科の重要事項を決定する代議員会には、今村彰宏先生、上野義仁先生、中川智行先生、西村眞一先生、山本朱美先生にご参画頂いております。

さて、昨年度の学位授与者は課程博士34名、論文博士2名であり、例年をやや上回る人数となりました。また、本年度4月

の入学生については、昨年度から入学延期をしていた者が含まれるため、33名と定員20名を大幅に超える状況ですが、そのうち5名については、形式上入学したものの渡日できていないという厳しい状況にあります。

昨年度は11月に第8回農学系博士教育国際連携円卓会議がリモートで開催され、協定校のリエゾンにご参加頂き、コロナ禍における博士教育や遠隔講義システムの活用について意見を交換する機会を得ました。その中で、遠隔講義システムを用いることで、海外協定校からも公開論文発表会や中間発表に参加して頂くことが提案され、了承されました。本年度から早速実践に移ることを予定しております。また、連合農学研究科・流域水環境リーダープログラムの共同研究発表会も円卓会議に引き続き行われ、多くの卒業生、研究者、学生が遠隔会議システムを通じて意見を交換いたしました。対面でのディスカッションとは趣が異なりますが、議論はむしろ整然と行われ、充実した内容になったものと感じました。

本年度は11月10・11日に、円

卓会議、学生の共同研究発表会に加えて、昨年度実施できなかった国際シンポジウムを遠隔会議システムで行う予定にしています。第11回国際シンポジウムのテーマは「Recent Progress in Forest Ecology and Management」で、大塚俊之先生、向井譲先生、加藤正吾先生にお世話頂いております。本研究科のホームページにおいて詳細を紹介いたしますので、ご興味のある方は是非ご参加頂ければと存じます。

現在、本研究科の在籍者は総数98名で、うち48名が外国人留学生、23名が社会人学生となっております。国・世間では、博士課程の学生を経済的に支援しようという機運が高まっており、奨学金なども徐々に充実化が進んでおります。その成果として、優秀な人材が博士課程に進学してくれることが期待されておりますが、本研究科もその流れに取り残されず、優秀な学生に選択してもらえない存在であり続けなくてはならないと、気持ちを引き締めているところです。教育・研究の環境について不断の改善に努め、国内外において注目さ

れるような農学の拠点として進化するように努めて参りたいと思っておりますので、ご指導賜りますようお願い申し上げます。末筆になりますが、同窓会会員諸氏のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(平松 研)

◆連合獣医学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

令和2年度の本研究科の学位授与者数は、課程博士23名、論文博士5名の計28名でした。また、令和3年9月の学位授与者数は、課程博士10名でした。平成30年度に最後に入学した学生も最終学年の4年生となり、本研究科には、現在、17名(うち留学生1名)の学生が在籍しております。この在籍する全ての学生が無事修了するまで、基幹校として社会に貢献する人材育成に務めてまいります。

昨年から、新型コロナウイルスの影響で、学位論文審査委員会や研究科委員会等のウェブに

各務同窓会報

よる運営を余儀なくされ、4大
学・5連携機関の学生や教員が、
直接顔を合わせることが難しい
という残念な状況が続いており
ますが、学位の質が落ちること
のないように本研究科の教職員
が総力を挙げて取り組んでいる
ところです。

本研究科の在学生も、新大学
院である共同獣医学研究科の学
生とともに、国内外の獣医学を
発展させることを目的に研究活
動に励んでおります。

今後ともご支援・ご鞭撻のほ
どよろしくお願い申し上げます。

(浅井鉄夫)

◆共同獣医学研究科

各務原同窓会員の皆様におか
れましては益々ご健勝のことと
お慶び申し上げます。

令和元年度に開設されました
岐阜大学大学院共同獣医学研究
科共同獣医学専攻が3年目を迎
えました。現在、17名の大学院
生が在籍しており、日本人学生
が13名、留学生が4名です。日
本人学生のうち11名は社会人学
生であり、勤務獣医師、あるいは

公務員獣医師として仕事をや
りながら大学院での研究活動に
も取り組んでおります。

昨年からの新型コロナウイルス
感染症の影響により、大学院
での活動にも様々な支障が出て
おります。「学際領域特別演習」
という科目では、共同大学院を

組んでいる鳥取大学の1年生お
よび教員が岐阜大学に集まり、
研究計画について議論する予定
でした。しかし、それも叶わず、
遠隔講義システムを用いたウェ
ブ開催となりました。また、一

昨年度から参加を始めた日本と
インドネシアの獣医系大学によ
る国際シンポジウムもインドネ
シアに集うことが出来ず、ウェ
ブ開催となりました。このよう

な形でも当初の目的はなんとか
果たせましたが、やはり対面で
議論することに比べると臨場感
に乏しく、少し寂しい感じがし
てなりません。来年は状況が改
善し、より良い方向に向かうこ
とを願っておりますが、共同獣
医学研究科の教育・研究をさら
に発展させるよう、我々も努力
を続ける所存でおります。

末筆になりましたが、同窓生
の皆様のご健勝とご活躍をお祈

り申し上げます。また、これか
ら共同獣医学研究科の運営に
関して皆様の変わらぬご指導、
ご鞭撻を賜りますよう、よろし
くお願い申し上げます。

(海野年弘)

◆附属岐阜フィールド科学
教育研究センター

各務同窓会会員の皆様方にお
かれましては、ご健勝にてご活
躍のこととお喜び申し上げます。

また、平素より格別のご高配を
賜り、厚く御礼申し上げます。

一昨年度末から続く新型コロナウイルス
ウィルス感染症のため、当セン
ターが担うフィールド教育にお
いても、感染防止対策を徹底す
ることで対面実習を維持してお
りますが、宿泊実習は中止せざ
るを得ない状況です。このよう
な状況下、柳戸農場では、昨年

度からの全畜舎建替え作業が完
了し、現在各建物内に設備が搬
入され、随時運用が開始されて
います。また、スマート農業へ
の取組で新温室が設置されまし
た。これらによって教育研究活
動が益々充実し、地域貢献への

寄与が期待されています。美濃
加茂農場では、昨年度始動した
飛騨牛繁殖研修事業が順調に推
移しており、今春第2期研修生
が入所し、来春には第1期生が
就農します。位山演習林では、
所在地の下呂市市長の視察と懇
談が催され、地域連携と教育研
究活動の強化が期待されていま
す。当センターの発展に向け、
今後とも皆様方のご指導ご鞭撻
を賜りますよう宜しくお願い申
し上げます。

(大場恵典)

◆動物病院

動物病院の現況についてお知
らせいたします。

動物病院の昨年度収入は、一
昨年度の4.4億円から増収し
5.3億円となっております。経
営状況については順調に増収と
なっておりますが、人材不足の
点については、なかなか改善し
ておらず、増員が迫っております。
ない状況となっております。特
に動物看護師の不足が目立って
おり、対応策として看護師募集
用の動画作成、効率的に看護師

育成を行うための教育部門設置、
専門学校等からの実習生の受け
入れ等を行っております。また、
動物看護師については数年後に
国家資格化を控えており、それ
を見据えた業務内容の再設定を
考慮していく必要があります。
また、現職員の国家試験受験対
策についても配慮していく予定
です。

施設整備としては、2024
年に保守サービス打ち切りが予
定されている放射線治療機の入
れ替えを目的とした、放射線治
療室の増築工事が本年度から開
始される予定です。これと同時
に、看護師控室の拡張や、大型
犬用犬舎の増築なども行い、職
員や診療数の増加に対応してい
く予定です。

今後とも動物病院の運営に関
しましてご理解ご協力のほど、
よろしくお願い申し上げます。

(森 崇)

◆野生動物管理学
研究センター

各務原同窓会員の皆様におか
れましては益々ご健勝のことと

お慶び申し上げます。

岐阜県の寄附による寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」につきましては、令和3年度は設置5年目（寄附研究部門としては2期目10年目）となり、今期の最終年度を迎えました。今年も、野生動物管理に関わる普及や情報提供を目的に、オンラインにて連続講座を開催致します。詳細なアナウンスは、<https://www1.gifu-u.ac.jp/~rcwm/>に掲載する予定ですので、機会があればご覧ください。

できました。

以上のとおり、当センターでは社会的ニーズに迅速に対応しつつ、野生動物管理学の教育研究を進めております。つきましては、同窓の皆様には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

（鈴木正嗣）

◆共同獣医学教育開発推進センター

また、豚熱（CSF）に関わる社会貢献として、環境省の環境研究総合推進費による「イノシシの個体数密度およびCSF感染状況の簡易モニタリング手法の開発」ならびに農林水産省の課題解決型プロジェクト研究による「CSFの新たな総合的防除技術の開発」等の研究も継続しております。岐阜県内では、大学ホームページの「研究成果」にて「豚熱発生がイノシシの広域的な分布に与える動向をはじめ把握」(<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/press/20210326.pdf>) として掲載された新知見も得ることが

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年度より共同獣医学教育開発推進センター長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成25（2013）年度に鳥取大学とともに共同獣医学科が設置され、岐阜大学と鳥取大学それぞれに「共同獣医学教育開発推進センター」（以下、センター）が組織されています。センターの活動は、遠隔講義や教員移動、学生移動などの共同教育を有効、かつ効率的に実施するための教育内容や教育方法を改善、開発、調整し、共同獣医学教育

に関する情報を発信することで、

獣医学教育の質の向上・発展に寄与することを目的としています（<https://gt-jdvm.jp/center/about>）。

最初の共同獣医学科の卒業生を令和元（2019）年度に輩出後、令和2（2020）年度から改善・改定されてスタートした新しいカリキュラムが2年生まで進行しています。コロナ禍により、いずれの学年でも対面講義ができなかったり、教員移動・学生移動の講義、実習ができなかったり、と急遽イレギュラーな対応をせざるを得ないことが多々あります。しばらくこの状況が続くと予想されることから、両大学で柔軟に調整、対応し、オンデマンド講義など活用しつつ、学生への教育の質は低下させないように努めてまいります。

今後とも同窓会の皆様のご指導とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

（猪島康雄）

◆家畜衛生地域連携教育研究センター（GeFAH、ジーフア）

各務同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、家畜衛生地域連携教育研究センター（Education and Research Center for Animal Food Health, Gifu University, GeFAH）の運営にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。本年4月より前任（2代）の猪島康雄教授からセンター長を引き継ぎました。GeFAHは、2015年4月に設置され、7年が過ぎました。その間、岐阜県内および近隣の自治体との連携による講義や体験型実習を通じて、公務員獣医師や産業動物に興味を持つ学生に対する家畜衛生学関連教育を充実させました。また、家畜衛生や公衆衛生に関する共同研究を通じて、畜産に関わる獣医師の卒後教育的な役割を果たしてきました。さらに、全国の獣医系8大学との産業動物防疫コンソーシアムへの参加など、全国的な家畜衛生教育・研究の協力体制を構築しました。これらは、初代センター長の北川 均教授（現 岡山理科大学教授）や猪島教授のご尽力によるものです。

昨年度は、COVID-19の影響で多くの企画が中止・縮小せざるを得ない状況でした。東海地域の畜産関係者との連携強化、家畜衛生関連教育内容の見直し等を図りながら、ワクチン接種後の世界に新しい環境に適した教育・研究システムを構築することを目指していこうと考えています。継続的なご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

（浅井鉄夫）



GeFAHの2種類のロゴマーク

教員の異動

定年退職

R3・3・31 応用生命科学課程

前澤 重禮

R3・3・31 生産環境科学課程

土井 守

退職

R3・3・31 共同獣医学科

川部 美史

昇任

R3・4・1 応用生命科学課程 分子生命科学 教授

柳瀬 笑子

応用生命科学課程 分子生命科学 准教授から

R3・4・1 応用生命科学課程 分子生命科学 准教授

島田 敦広

応用生命科学課程 分子生命科学 助教

R3・4・1 応用生命科学課程 食品生命科学 准教授

北口 公司

応用生命科学課程 食品生命科学 助教

R3・4・1 生産環境科学課程 応用植物科学 教授

梶川 千賀子

生産環境科学課程 応用植物科学 准教授から

R3・4・1 生産環境科学課程 環境生態科学 准教授

乃田 啓吾

生産環境科学課程 環境生態科学 助教から

配置換

R3・9・1 共同獣医学科

岩崎 遼太

応用生物科学部附属動物病院から

採用

R2・12・1 共同獣医学科 准教授

正谷 達膳

新任教員のあいさつ

共同獣医学科 准教授

正谷 達膳



この度、令和2年12月1日付で人獣共通感染症学研究

室・准教授として着任いたしました。平成14年に本学農学部獣医学科へ入学するまでは名古屋市中で生まれ育ち、卒業後も本学連合獣医学研究科へそのまま進学いたしました。その後、縁あって帯広畜産大学原虫病研究センターの研究員として2年、鹿児島大学共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター教員として7年、日本の北端と南端でそれぞれ暮らし、この度再び日本の真ん中・岐阜大学へ帰還いたしました。

本学在学時は狂犬病ウイルスの基礎研究に打ち込んでおりましたが、帯広・鹿児島ではそれぞれ畜産動物・野生動物を対象としたフィールド研究に触れ、その魅力にも取り憑かれることとなりました。今後は、古巣である人獣共通感染症学研究室が

これまで継続してきた狂犬病・口タウイルス研究を引き続き発展させていくとともに、帯広・鹿児島で培ってきた原虫病学、特にトキソプラズマ、ピロプラズマ及びクリプトスポリジウムの研究にも引き続き邁進していきたいと考えております。学科・学部・研究機関・企業・行政等、枠に囚われず共同研究を展開していきたいと思っておりますので、同窓生の皆様におかれましてはご相談させていただくこともあるかと思いますが、その際には何卒宜しくお願いいたします。

教育面については、公衆衛生・人獣共通感染症学教育に加え、北海道と鹿児島という、我が国の2大畜産地帯で地域連携研究などを通して得たさまざまな体験や、鹿児島大学在籍時に欧州獣医学教育機関協会(EAEE)認証取得までの取り組みで得た経験を含め、学部全体に還元していけたらと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教員・旧教員の受賞

田中 貴 助教	日本作物学会第250回講演会 優秀発表賞	令和2年9月4日
千家正照 名誉教授	第71回岐阜新聞大賞受賞	令和3年2月6日
柳瀬笑子 准教授	2021年度農芸化学会女性研究者賞	令和3年3月18日
山根京子 准教授	第12回辻静雄食文化賞	令和3年5月24日

退職者記念事業の報告

前澤重禮教授

応用生命科学課程食品生命科学コースの前澤重禮教授は、令和3年3月31日をもって定年退職されました。

先生は、平成4年岐阜大学農学部にご着任後、農学部および応用生物科学部において教育と研究に従事され、その多年にわたる功績により本学名誉教授の称号が授与されました。

退職記念事業として、令和3年2月12日（金）午後1時30分から101多目的ホールにおいて、「不連続な研究から思い知った価値観」と題する最終講義が行われました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、講義後の茶話会は開催しない事業とし、各務同窓会報とホームページによるご案内



内だけでしたが、森脇学長をはじめ、現役およびOBの教職員、学生、卒業生のご参加を得て、盛大な最終講義となりました。

ご退職後は、令和3年4月に新設されました「社会システム経営学環」の特任教授として、引き続き岐阜大学において教育活動に従事されておられます。今後の先生の益々のご活躍とご健勝をお祈りして、事業報告とさせていただきます。

（西津貴久）

退職予定者のあいさつ

人、時、場

3つの幸運に感謝

向井 譲



私は、1981年に岐阜大学大学院農学研究科修士課程を修了

後、森林総合研究所（森林総研）と静岡大学で23年間、2004年

3月から岐阜大学で18年間、計41年間の勤めを終えて定年を迎えます。この間、お世話になった皆様や指導した学生の皆様に厚くお礼申し上げます。無事定年を迎えることができたのは3つの幸運に恵まれたからだと思っています。

1つめは、「人」です。学生時代には指導教官の先生から研究者への進路を決める大きな影響を受けました。森林総研では、多くの研究仲間がで、大学に移動後も様々な支援をいただきました。静岡大学では、上司の先生から研究への情熱を学びました。岐阜大学では、授業や研究指導で、多くの先生のお世話になりました。また、

多様な研究に接することができ、新たな研究の着想に繋がりました。指導学生にも恵まれ、楽しい研究室にしていいただきました。管理・運営でも多くの教職員からご指導とご協力をいただきました。加えて、学外でも県職員の皆様や同窓生の皆様など多くの方々のお世話になりました。

2つめは「時」が良かったため、3つの職場をスムーズに移動できました。森林総研から静岡大学への移動時は、研究課題のゲノム解析が注目された時期であり、移動後もプロジェクトに加えていただきました。また、静岡大学から岐阜大学への移動時は、法人化の直前であり、研究機器の移動などをスムーズにおこなえました。

3つめは、「場」です。森林総研では、整った設備で研究に没頭でき、近隣の研究機関から常に研究刺激を受けました。静岡大学では、富士山や苗場山などでフィールドを対象とした研究が展開できました。岐阜大学では、全国に誇れる位山演習林を研究フィールドとして利用することができまし

た。また、両大学が、連農の構成校であるため、博士課程の学生の移動が簡単にできたことも幸運でした。

最後に、お世話になった皆様にあたためてお礼申し上げます。

退職を迎えて

山本 謙也



岐阜大学着任以来37年の年月が経ち、来春3月末をもって定

年退職することになりました。在職中にお世話になった教員・事務職員・学生の皆さまに深く御礼申し上げます。着任した1985（昭和60）年は柳戸地区への統合移転が完了した年で、真新しいキャンパスや建物を初めて見た時、「まるで万博会場」との印象を持ったことをよく覚えています。時が過ぎ、キャンパスの樹木は大きく立派に育ちました。一方、このところ校舎の改修工事やキャンパスのライフライン工事があちこちで行われているのを見て、ちょうど柳戸キャンパスの最初のサイクルで教員生活を送らせてもらい、リニューアルに合わせて去るのかな

という気がしています。着任まで岐阜には縁がなかった私ですが、最近よく散歩で訪れる長良川河畔からの金華山を望む風景は、他にはない格別のもので、見るたびにつくづく岐阜に来て良かったと感じております。

初めは教養部生物学教室に所属し、全学の教養教育を担当しておりましたが、1996年9月末の

教養部廃止に伴い、農学部生物資源生産学科に新設された多様性生物学講座に移籍しました。この講座は幅広い専門の教員が所属するユニークなもので、楽しく過ごさせてもらいました。学生のいない教養部で過ごしていた私が初めて卒論を指導することになり、初め

はまごつきでしたが、学生指導の苦労を通じて自らも成長できるということを次第に実感するようになりました。その後、2004（平成16）年4月の学部改組にともな

い、所属は応用生物科学部生産環境科学課程の応用動物科学コースに移りました。動物の専門家が揃う、このコースで多くのことを学ばせてもらいました。研究では、一貫して、ヒトデの未成熟卵（一

次卵母細胞）がホルモンの作用で受精（精子受け入れ）可能な成熟卵に変化する現象、すなわち卵

成熟過程に取り組みました。ほんの一部のことしか明らかにできなかったことが少々心残りですが、棘皮動物の発生生物学という、農

学本流から外れた専門の私の研究室に来てくれた多くの優秀な学生さんたち、そして支えてくださった教員の皆さまに心から感謝いたします。私自身は「未成熟」（未

退職者記念事業のお知らせ

向井讓教授

定年退職のお知らせ

生産環境科学課程環境生態科学コースの向井讓教授は、令和4年3月31日をもって定年退職されます。先生は、岐阜大学大学院農学研究科を修了後、林野庁林業試験

場（現国立研究開発法人 森林研究・整備機構）、静岡大学農学部を経て平成16年に岐阜大学応用生物科学部に教授として着任されました。また、平成7年には筑波大学にて博士（農学）の学位を取得されています。

学内では、応用生物科学部副学部長や生産環境科学課程長の要職に就き、学部運営に貢献されまし

熟？）のまま定年を迎えてしまいました。が、少しでも「成熟」に近づけるよう、定年後の生活を充実させたいと思っています。

最後になりましたが、応用生物科学部ならびに各務同窓会会員の皆さまの益々のご発展とご健勝を心からお祈り申し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。

た。また、学外でも、林木育種協

会理事、中部森林学会理事、日本森林学会誌編集委員、岐阜県森林審議会会長、農林水産省生物多様性影響評価検討会委員などを歴任され、地域や国内における森林科学分野の発展に多大な貢献を果たされました。

先生は、これまで木本植物を研究対象に、遺伝的多様性の維持機構や環境適応のメカニズムを分子レベルで理解することを目指し研究を展開され、数多くの業績を残されました。また、二次代謝物が

多く含まれる木本植物では困難であった核酸抽出において新たな手法を開発されました。この手法は、木本植物にとって非常に効率的で

あり、今なお多くの研究者に活用され続けています。

先生のご退職にあたり、最終講義を令和4年3月2日（水）13時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催します。多数のご参加をお待ち申し上げます。また、講義終了後、15時からA棟1階第1会議室において茶話会を開催する予定です。

（片畑伸一郎）

山本謙也准教授の

定年退職のお知らせ

生産環境科学課程応用動物科学コース動物発生学研究室の山本謙也准教授は、令和4年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、昭和60年4月に京都大学教養部非常勤講師から岐阜大学教養部助手（生物学教室）として

転任されました。その後、助教教授に昇任され、平成8年より岐阜大学農学部助教教授になりました。平成16年からは学部改組により応用生物科学部准教授として、教育・研究に従事されました。

先生は、ヒトデやナマコなどの棘皮動物を用いた発生学の研究に従事され、卵子や精子を用いて、受精や発生機構の解明について非

常に細かい興味深い視点から多くの新知見を明らかにされてこられました。そして、動物発生学研究室の礎を築かれました。この間、

日本動物学会中部支部岐阜地区委員を歴任され、中部支部大会実行委員会委員として3回の岐阜支部大会の開催に尽力されました。さらに、平成22年から8年間、日本生物学オリンピック岐阜会場責任者を務められました。また、公開講座や非常に多くの出前講義を実施され、中高生の教育や学部広報にも多大なる貢献をなされました。

学内においては、生物入試問題

出題委員会委員や生物専門部会委員を務められ、全学の入試業務に貢献されました。また、教務厚生委員、教学委員、安全衛生推進室員を歴任され、学部運営に尽力されました。

在職中の先生のご功績とご指導に心より敬意を表すとともに感謝の意を表したいと思います。先生が築かれた本学における動物発生学を受け継ぎ、発展させていく所存です。先生のご退職後のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。なお、先生のご意向に沿って特別な最終講義の設定はいたしておりません。

（日巻武裕）

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成19年度に設立されました。令和2年度も各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究科の学生の中から次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程

大須賀玲奈

生産環境科学課程

上村 岳斗

共同獣医学科

村越 湧

生命科学・化学専攻

入谷 隼多

生物生産環境科学専攻

野寺 美輝

大須賀 玲奈

この度は同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、幸甚の至りに存じます。講義や研究活動を通じて御指導を賜りました先生方、日々の様々な物事に対する熱心な姿で刺激をくれた研究室の皆様のおかげで受賞できたのだと思います。心より感謝申し上げます。卒業後、修士課程に進学いたしました。学問を学び研究する楽しみを見出すことができ、充実した生活を送っています。この素晴らしい賞を励みとし、精進していく所存です。改めて、各務同窓会の皆様に感謝申し上げます。

上村 岳斗

この度は同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。これまでにご指導いただいた先生方や先輩方、共に勉学に励んだ同級生、そしていつも応援してくれた家族に心より感謝申し上げます。4年間の講義、研究、サークル活動を通じて、非常にたくさ

んの知識と経験を得ることができました。

卒業後は修士課程に進学いたしました。今回の受賞を励みとして、日々の努力を忘れずに、今後も勉学と研究活動に邁進して参りたいと思います。

村越 湧

この度は同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

6年間熱心にご指導してくださった先生方や先輩方、共に勉学に励み切磋琢磨した同級生、慕ってくれた後輩、そして支えてくれた両親に心より感謝申し上げます。

今は小動物臨床獣医師という仕事に就いて、日々言葉の世話のない動物と向き合い、苦勞することも多くありますが、大学で得た知識と経験を活かし、同窓会長賞に恥じぬよう誠心誠意努めてまいります。

入谷 隼多

この度は同窓会長賞という栄

誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。ご指導いただきました先生方や先輩方、共に切磋琢磨し、支えてくれた同期や後輩、そして温かく見守ってくれた家族に心より感謝申し上げます。

大学・大学院で充実した研究生活を送ることで得られた経験が社会人となった今の私を支えてくれていると感じています。

今後も学生生活で得た学びを活かして社会に貢献できるように日々努力して参ります。

野寺 美輝

この度は、同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。熱心にご指導くださった先生方、苦勞を共にした同期や、見守ってくれた家族には心より感謝申し上げます。

大学で学んだ知識、経験を活かすことができる仕事に就き、社会人の波に採まれながらも、大変充実した生活を送っています。

今後も岐阜大学、大学院で培った経験を最大限に活かし、社会貢献できますよう努めて参ります。

吉寄基金

シアリダーゼ(NEU1)選択的阻害剤の開発

応用生命科学課程 今村 彰宏

糖鎖は私たちの体の中でも重要な働きをしています。また、ガンを始め、糖尿病、アルツハイマー病、自己免疫疾患など、身近な病気の発症にも深く関わっています。本研究で着目したシアリダーゼという酵素は、糖鎖の末端にあるシアル酸という糖を切断する役割をもっており、この酵素の発現異常はさまざまな病気を引き起こします。そこで本研究では、シアリダーゼが関与する病気の治療薬を開発するため、この酵素の働きを選択的に阻害する分子の化学合成に取り組みました。

吉寄基金のご支援により、一年間で多数の化合物を合成することができました。そして、それらのシアリダーゼ阻害活性を評価したところ、阻害剤候補として有望な化合物が見つかりました。今後、さらなる検討を重ね、今回の成果を治療薬上市につなげられるよう引き続き研究を進めて参ります。

最後になりましたが、本研究を実施するにあたり多大なご支援を賜りました吉寄清己様に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

シトクロム酸化酵素とその活性制御タンパク質CHCHD2の複合体構造解析

応用生命科学課程
生体分子機能学研究室

島田 敦広

ミトコンドリア内膜に存在するシトクロム酸化酵素は酸化的リン酸化の中核を担うタンパク質であり、本酵素の活性低下は生体内エネルギーの生産低下やミトコンドリア代謝異常を誘引し、重篤な神経変性疾患やミトコンドリア病などの原因となることが知られています。そのため、シトクロム酸化酵素の賦活化物質の探索が広く行われてきましたが、近年パーキンソン病の原因遺伝子の一つであるCHCHD2がシトクロム酸化酵素を賦活化することが報告されました。しかし、その賦活化機構は未だ未知のままです。そこで、我々の研究室ではCHCHD2とシトクロム酸化酵素の複合体構造から、シトクロム酸化酵素の賦活化機構を解明し、創薬研究へとつなげることを目的に研究に取り組んでいます。今回、吉寄基金の支援によりCHCHD2の大量発現系の構築、およびシトクロム酸化酵素とCHCHD2の直接相互作用を確認することに成功しました。現在、ク

ライオ電子顕微鏡を用いた複合体構造の解明に取り組んでいるところです。本研究を開始できたのは吉寄基金の支援のおかげであり、吉寄清己様およびご遺族様の厚いご支援に心より感謝申し上げます。

C19 吉寄清己研究支援寄附金の令和3年度受領者

石田 秀治

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己様の篤志により、平成19年度から「吉寄清己研究支援寄附金」として、応用生命科学課程教員の研究を支援して頂いています。ご遺族様から、ご逝去後もご援助を継続して頂けるといふ吉寄様のご遺志を伺い、本年度も本研究支援寄附金の受領者の選考を進めさせて頂きました。本年度は、鈴木史朗准教授の「キシランの有効活用に向けたキシラン生合成におけるキシラン主鎖修飾機構の解明」と山内恒生助教の「新規フラボノイドプロープの合成とメラノーマ細胞内標的タンパク質の同定」に、それぞれ500,000円のご支援を頂くことになりました。先生方には、吉寄様が望んでおられる「応用生命科学課程の名声を高める研究」に邁進頂ければと思います。

支部会員からの便り

解説ボランティアの喜び

岩手支部 岡田 幸助 (V大15)

私は岩手大学を退職して11年になる。しかし、未だに毎週金曜日に大学に行っている。何をしに行くのかといえば、岩手大学ミュージアムの来館者に展示物の解説・案内をするためである。同施設は2000年に準備委員会が設けられ、2003年に開館した。大学でこれまでどのような研究がなされたかを中心に展示している。かつては解説ボランティア制度があり、30数名の一般市民のボランティアさんが活躍されていたが、諸般の事情で今はいない。私は退職まで10年ほど館長を勤めたので、頼まれたわけでもないが、現在案内できる人がいないので、勝手にその役を引き受けている。専門外の解説をするには勉強しなければならぬ。展示物を一つ一つ調べてみると、その意義と重要性がよくわかる。何も知らないで館長をしていたことに恥じるばかりである。新入生には自分の大学の歴史と研究成果を知ってもらい、今後の自分の学習の方向性を考えるきっかけとなる。父兄や受験生には大学の特徴を知ってもらうことができる。大学来訪者、観光客、地元の人には大学の成

果を知ってもらえる良い施設である。大学ミュージアムの展示・公開の意義を述べたが、本来の第一の目的は大学で生まれた研究成果を収集、整理、保存することである。大学図書館のように制度がまだまだ整備されていないが、理想を目指して努力していかなければならない。一度、ネットで岩手大学ミュージアムを検索してみてください。



宮沢賢治とりんご「はるか」のモニュメント
(館内に「はるか」の解説が展示されている)

岐阜大学各務同窓会富山県支部報告

1 総会の開催状況

富山県支部総会は、近年、2年に1度の開催とし、会員相互の情報交換と親睦を深めているところです。

本年がその年になることから、今年2月に幹事会を開催し、5月の実施を決定し準備を進めていました。ところが、日を追うごとに、本県に於いても、新型コロナウイルス感染者の増加が目立ち、開催を危惧する会員からの問合せが多くなりました。しかしながら、松井支部長の想いが強く、5月開催は揺るぎませんでした。

そのような状況の中、富山県において、4月23日ステージIIを宣言され、多人数での会食が自粛という事態になり、「延期止むなし」も選択肢に考えている頃、岐阜県が「まん延防止等重点措置」に指定され県外への移動が制限されたことから、本部からの講師派遣が丁重にお断りされました。止むを得ませんでした。

さて、総会出席報告者が段々減少し、この時点では、7名になっていました。「これまでか」と暗い思いで、日毎の感染者数の推移を眺めています。

した。

そんな折、総会会場をお願いしている、和食「ティファニー」の女将さんから、支部長の想いに呼応するように、次のような提案が有りました。

それは、「会場を広く設定し、3密を避け、ソーシャルディスタンスを十分図り、銘々の料理で、短時間での会食とし、万全を期せるので、ご安心して開催下さい」と心強い配慮でした。結果、何とか開催に漕ぎつけました。

その概要は、以下のとおりでした。

- 1 出席者6名（会食自粛、感染拡大防止等を考えどうしても参加が叶わなかった会員1名が急遽欠席でした）
- 2 物故会員への哀悼の黙とう
- 3 支部長あいさつ（本部からの情報を含めて、コロナ禍の中での出席に感謝する旨と支部の活動を活発化しようと訴えられました）
- 4 役員改選
- 5 懇談 中身が例年より、一層濃いものとなりました。
- 6 校歌、寮歌の斉唱は中止

富山県支部 宮長 悟（F大22）

毎回、出席者全員が肩を組み、各自の青春を思い出しながら、力一杯合唱し、再会に思いを馳せての閉会となりましたが、今回は、中止ということで寂しい散会となりました。いずれにしても、一刻も早いコロナ感染の終息を祈りました。

2 富山県支部の悩み

会員の高齢化と減少による運営の在り方

- 一 高等専門学校卒業者の減少が著しく、3名の会員になっております。
- 一 大学の卒業生はいるのですが、支部への加入がなされない。
- 一 本支部では、昭和50年代から医学部、工学部の同窓生も、支部に加入し和気藹々と活動をしております。本部連合の先取りをしていましたが、中々会員増大には繋がりませんでした。

★ 皆さま方をお願い申し上げます。本支部の「悩み」の解決策をご教授下さい。

【叙勲受章】 柘植治人名誉教授（平16） 瑞宝中綬章、7/29（木）

柘植治人名誉教授におかれましては令和3年4月29日、瑞宝中綬章を受章されました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため皇居における授与式典は中止となり、7月29日、光永学部長より授与されました。

柘植名誉教授は、ビタミンB2およびビタミンB6の栄養生理・生化学的研究を推進し、日本人の健康増進および長寿命化への足がかりを築いた。水溶性ビタミン類の生理学的研究において顕著な発明・発見をし、斯学の発展に貢献されました。



叙位・叙勲（会員）

次の通り叙勲を受けられました。

青木 章雄 氏（E大21）

瑞宝双光章

（令和3年4月29日）

計 報

昨年の会報101号以後、令和3年9月までに御逝去が確認された方々は、次のとおりです。
謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

農 学 科	
A20	新 井 平 夫
A20	松 澤 宏
A21	中 川 久 市
A22	古 山 一 夫
A25	松 原 幸 男
A大2	宇 野 善 男
A大2	片 岡 勇
A大4	岩 塚 基
A大4	北 村 清
A大7	谷 村 十 郎
林 学 科	
F20	早 川 嘉 明
F22	可 児 峯 夫
F24	植 杉 滋
F24	宮 川 俊 直
F25	名 知 彰
F大1	萩 野 喜 弘
F大2	平 野 孝 路
F大6	稲 葉 信
F大8	後 藤 章
F大8	竹 田 幸 郎

F大31	吉 森 治
農芸化学科	
C15	秋 山 龍 馬
C16	菊 野 善 之助
C20	原 田 謙 吉
C大1	岡 本 松 雄
C大4	川 崎 保 之
C大4	針 田 正 泰
C大7	野 依 達
C大8	清 水 正 信
C大8	瀬 口 寛
C大8	旦 春 樹
C大11	小 川 康 夫
C大12	松 原 康 明
農産製造科	
M1	三 石 登
獣医学科	
V1	堀 岡 徹 也
V3	大野 (安藤) 脇 弥
V4	石 黒 藤 治
V6	国 井 敏 明
V6	水 谷 照 幸

V大4	瀬 瀬 保 朗
V大4	本 井 恭 司
V大9	岩 島 孝 芳
V大10	辻 本 孝
V大11	山 原 照 生
V大12	西 浦 義 幸
V大17	山 村 久 兵衛
V大34	横 井 宏 禎
農業工学科	
E1	神 戸 定 一
E2	山 田 修
E3	岩 見 昭 三
E4	鈴 木 武 比古
E大1	広 川 政 則
E大2	藤 田 尚 三郎
E大3	山 田 裕 一
E大6	有 賀 祥 五
E大6	岡 本 憲 一
E大6	坂 野 行 雄
E大11	富 田 正 彦
E大11	宮 地 三 隆
E大12	片 山 克 武

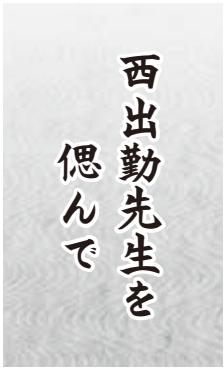
E大14	水 谷 嘉 孝
E大17	横 井 敏 雄
E大20	小 宅 伸 治
農村工業実科	
AT1	桜 井 一 正
AT5	高 井 孜
AT9	高 田 久 昭
AT11	大 藪 敏 英
農業専修科	
SP15	井 上 豊 実
SP16	日 比 野 銀 男
SP18	伊 藤 要
SP19	熊 崎 英 男
旧 教 員	
旧教員	今 村 博 之
旧教員	竹 内 龍 三
旧教員	綱 本 皓 二
旧教員	西 出 勤
旧教員	安 江 保 民

先生のご専門は灌漑排水学で、畑地用水をはじめとする幅広い分野で多大な研究成果を挙げられました。その中でも特筆されるのは、「露地畑の用水量に関する研究」です。従来から畑地における灌漑が農家の経験と勘に頼ることが多かったが、植物生理的な観点から土壌水分が毛管

の後、昭和50年8月には岐阜大学農学部教授となり、平成8年3月に定年により岐阜大学を退職するまで農業水利学の教育・研究に邁進されました。この間、約230名にも及ぶ専攻学生の育成にご尽力され、多数の有為な人材を社会に送り出されました。

西出先生は、昭和7年11月30日石川県に生まれ、昭和32年3月岐阜大学農学部農業工学科を卒業後、昭和37年3月京都大学大学院農学研究科博士課程を終えられました。同年4月には京都大学工学研究所助手として採用され、昭和38年9月に岐阜大学農学部助手に転任されました。その後、昭和50年8月には岐阜大学農学部教授となり、平成8年3月に定年により岐阜大学を退職するまで農業水利学の教育・研究に邁進されました。この間、約230名にも及ぶ専攻学生の育成にご尽力され、多数の有為な人材を社会に送り出されました。

昨年9月4日に、岐阜大学名誉教授西出勤先生がご逝去されました。



西出勤先生を
偲んで



先生のご専門は灌漑排水学で、畑地用水をはじめとする幅広い分野で多大な研究成果を挙げられました。その中でも特筆されるのは、「露地畑の用水量に関する研究」です。従来から畑地における灌漑が農家の経験と勘に頼ることが多かったが、植物生理的な観点から土壌水分が毛管

私、昭和56年1月に岐阜大学に着任して以来、先生のご指導の下で多くのことを学ばせて頂きました。先生の明るく優しいお人柄にも触れ、楽しく充実した時を過ごさせて頂いたことに感謝しております。先生のご冥福をお祈りするとともに、心よりお礼申し上げます。

学内にあつては、学科長、評議員などの要職を長期間歴任され、学部の発展にも大きく貢献されました。このような学部の管理運営でご多忙の中にあつても、研究に関わる現地調査の折には欠かさず同行して頂き、時間を惜しんで実験されている姿が今でも懐かしく思い出されます。

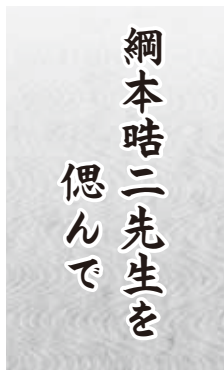
連絡切断含水量に達するまで乾燥したときに灌漑を開始すべきであることを実験的に検証し、露地畑に必要な用水量の理論的な定量化に大きく貢献され、畑地灌漑における研究分野の第一人者として学会でも高く評価されております。

温厚な性格とわけ隔ての無い人との接し方、さらに抜群の記憶力は、数多くの卒業生から「綱さん」の愛

民間企業からの誘いを全て断られて悠々自適の生活を送られていたのですが、ここ数年は呼吸器系疾患のために外出もままならないと伺っていました。

綱本皓二先生は90歳の誕生日を2週間後に控えた令和2年9月17日に永眠されました。昭和28年に北海道大学農学部林学科を卒業され、大学院修士課程を修了された後、昭和30年10月に岐阜大学農学部に入職されました。学内では演習林長や林学科主任、岐阜大学評議員などを、学外では日本林学会中部支部長や砂防学会理事を歴任されるなど38年余にわたって勤務され、平成6年3月に定年退官されました。夏の甲子園大会地区予選の決勝戦、また神宮球場で開かれた全日本大学選手権でそれぞれエースピッチャーとして活躍されるなどスポーツマンとして知られ、長年、岐阜大学硬式野球部の部長も務められました。退官された後は、

綱本皓二先生は90歳の誕生日を2週間後に控えた令和2年9月17日に永眠されました。昭和28年に北海道大学農学部林学科を卒業され、大学院修士課程を修了された後、昭和30年10月に岐阜大学農学部に入職されました。学内では演習林長や林学科主任、岐阜大学評議員などを、学外では日本林学会中部支部長や砂防学会理事を歴任されるなど38年余にわたって勤務され、平成6年3月に定年退官されました。夏の甲子園大会地区予選の決勝戦、また神宮球場で開かれた全日本大学選手権でそれぞれエースピッチャーとして活躍されるなどスポーツマンとして知られ、長年、岐阜大学硬式野球部の部長も務められました。退官された後は、



綱本皓二先生を
偲んで

称で慕われ、県および国の林業機関の職員からも高い人望を得ることになりました。高段者級の囲碁の実力を有し、こよなくお酒を愛され、酔えばカラオケに興じられるなど、先生にまつわるエピソードは数多く、その一つ一つが卒業生の皆さんの胸に深く刻まれていることでしょう。心からご冥福をお祈り申し上げます。

(木村正信)

安江保民先生を 偲んで

安江保民先生は、令和二年十二月二十五日、九十三歳で逝去されました。

先生は、昭和二年二月二十一日に岐阜県加茂郡東白川町で生まれ、昭和十八年十二月に岐阜農林学校林学科を卒業され、林野局東京林業試験場に勤務されています。その後、林野庁林業試験場と改名され、林産化学部で昭和四十七年まで勤務された後、山形大学農学部教授として転任されました。昭和五十八年四月には岐阜大学農学部教授に配置換えとなり、樹木生理化学講座を主宰され、平成二年三月に定年にて退職される

まで木材抽出成分化学の教育・研究に努められました。

先生は、二十八年間林野庁林業試験場で木材抽出成分の研究者として従事されました。特にアサダ材の抽出成分に関する研究では、アサダニ及びその同族体の化学構造研究を精力的に行い、九州大学から学位を授与されるとともに、第八回日本木材学会賞を受賞されています。

四十五歳で山形大学農学部教授として転任後は、主にスギ針葉のジテルペン炭化水素に関する育種学的研究に没頭されました。先生は、林業試験場時代に共に切磋琢磨した仲であつた、今村博之先生が岐阜大学農学部から九州大学農学部へ転出された後に、岐阜大学農学部樹木生理化学講座を引き継がれました。岐阜大学では七年という短い間でしたが、大橋英雄名誉教授（当時は助教授）と二人三脚で研究室を運営され、特にコウヤマキやスギを中心に、ジテルペン分析による品種系統の化学分類について多くの功績を残されました。

以上のように、先生は、樹木生理化学及び木材化学の基礎的研究を実践され、木材利用における抽出成分の化学構造研究、ならびに化学成分に基づく分類学の研究まで多岐にわたって精力的に活動し、林産学さら

に林産業の発展に大きく貢献され、その功績は誠に顕著であります。

今年四月に、山形大学と岐阜大学の安江先生門下の学生の方々による追悼集が作成されました。そこには安江先生が学生と研究・教育に真摯に向き合い、苦楽を共に過ごされた様子が綴られており、学生さん達にとつて人生のかけがえのない恩師であつた事が十分に伝わるものでした。

安江先生からお受けした多くの薫陶を偲びつつ、皆様とともに心からご冥福をお祈りしたいと思います。

(光永 徹)

今村博之先生を 偲んで

今村博之先生は、令和二年十一月十三日、九十三歳で逝去されました。

先生は、昭和二年三月二十八日に福岡県でお生まれになっています。

昭和二十二年に熊本工業専門学校工業化学科を卒業され、九州大学農学部林学科（森林化学）に進学されました。その後、熊本県立工業試験場、林野庁林業試験場に勤務され、昭和

四十三年に岐阜大学農学部樹木生理化学講座の教授に就任されました。

十四年間岐阜大で過ごされた後、昭和五十七年に母校である九州大学農学部木材化学講座へ転出されました。九州大学では八年間という短い間でしたが、平成二年三月に定年にて退職されるまで木材抽出成分化学の教育・研究にご尽力されました。

岐阜大学農学部樹木生理化学講座時代は、多数の樹種の心材抽出成分について徹底的に検索し、なかでもサワランの化学構造に関する先駆的研究は、当時の先端的手法を駆使したものであり、国内外から高く評価され、昭和三十七年度の日本木材学会賞を受賞されています。さらに、マメ科ミヤコグサ亜科樹木のイソフラボン類並びにウルシ科木材のフラボノイドに関する網羅的かつ系統的研究では、同科に属する木本植物の生理化学及び化学分類学の進歩に貢献するとともに、木材の色素成分の化学構造の解明ならびに材の変色機構に関する重要な知見を国内外に示されました。

九州大学農学部木材化学講座時代は、環境負荷の小さなパルプ製造法の開発を目指し、安価で安全なイソプロピルアルコールと亜硫酸塩を用いた、アルコール・亜硫酸塩法によるリグニン分解法の開発及び有用副

産物を生成する低環境負荷型の新パルプ化法を提案されました。さらに低環境負荷型のリグニン分解法として、微生物（担子菌）によるリグニン分解に着目し、リグニン微生物分解における新技術の開発にも携わっています。

先生は大学運営にも貢献されており、岐阜大学においては付属演習林長、教務厚生委員長、九州大学では将来計画委員、付属演習林審議委員を歴任されました。学外においては、日本木材学会評議委員、同学会誌編集委員、同学会九州支部長として日本木材学会の発展に努めると共に、産業界の発展や産学連携の強化にも貢献されています。

以上のように、先生は、樹木生理化学及び木材化学の基礎的研究から木材利用における重要課題の解決、ならびに新技術の開発を目指した応用研究まで多岐にわたって精力的に活動し、林産学さらには林産業の発展に大きく貢献され、その功績は誠に顕著であります。今村先生からお受けした多くの薫陶を偲びつつ、皆様とともに心からご冥福をお祈りたいと思います。

(光永 徹)

岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業

応用生物科学部長 光永 徹

岐阜大学応用生物科学部は2023年をもちまして創立100周年の記念すべき年を迎えます。前身である岐阜高等農林学校が1923年12月に官制交付され、翌24年4月、現在の各務原市（旧稲葉郡那加村）に開設されました。1982年には岐阜市柳戸の現在のキャンパスに移転し、2004年4月、岐阜大学の法人化と同時に、応用生物科学部として新たな歩みを始め、現在に至っております。

少子高齢化社会、そして縮小社会と大学にとって大変厳しい時代を迎えています。一方で、本学部は高校生からの人気も高く、地域からの期待も大きいことから、地域への貢献を標榜する岐阜大学にあって、存在感をもって光り輝くことができています。これも、これまでの同窓生の皆様のご活躍の賜と深く感謝申し上げる次第です。記念すべき100年を機に、農学部から応用生物科学部へと歩んできた道を振り返り、さらなる前進と飛躍を期し、同窓生の皆様と慶びを分かち合うため、創立100周年記念事業会を発足し、2年後の100周年記念事業を実施することとしております。事業内容として、記念式典・祝賀会の開催や記念誌の発行、同窓会活動活性化事業などを行ってまいります。何卒この趣旨にご賛同いただき、募金という形でご支援いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

皆様もご存じのように、昨年の4月から名古屋大学との法人統合がスタートし、東海国立大学機構岐阜大学となりました。両大学の農学教育研究拠点が形成され、それぞれの分野の特色を生かし、お互いの教育を補完することで、強力で魅力的な新しい農学を展開することが期待されています。2年後には、さらに進化した農学を会員の皆様にお見せし、農学部・応用生物科学部創立100周年を皆様とお祝いできることを祈念いたします。

最後に、会員各位のより一層の交流が図られ、各地域での同窓会活動が活発になりますことを期待いたします。

■ 100周年記念事業内容 ■

1 記念式典等

開催日 2023年6月3日（土）
場 所 岐阜大学及びグランドホテル
内 容 講演会・植樹（大学）、
式典・祝賀会（ホテル）
備 考 会費制

2 記念誌の発行 等

■ 寄 附 ■

記念事業を行うためには少なからぬ費用が必要であり、皆様からの寄付に依存しなければなりません。何卒、諸事情ご賢察いただき温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、今年8月から当記念事業の寄付は岐阜大学基金特定事業の対象になり、税制上の優遇を受けられるようになりました。個人一口5千円、法人・企業一口1万円にて寄付を募りますので、別添振込用紙にて振込いただきますようお願い申し上げます。詳細は別添用紙に記載しておりますのでご覧ください。

また、法人の方々には協賛をお願いしております。協賛いただきました方には記念式典で配布する資料に広告を掲載いたします。応用生物科学部100周年記念事業会HPにある「広告掲載のご案内」をご覧ください。

皆様のご支援を賜りますよう、発起人一同心よりお願い申し上げます。

岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念 同窓会活動活性化事業を実施します

★ロゴマーク



★キャッチフレーズ 「100年の伝統 清流のごとく さらに未来へ」

100周年記念事業の一環として同窓会活動活性化事業を実施します。

現在、各地域にあります支部では定期的に同窓会を開催し、会員相互の親睦が図られていますが、「参加者が減少している」「会員の高齢化が進んでいる」「入会者が減少している」などの声が聞かれるようになりました。こうしたことから、100周年を契機に、同窓会での活動を活発化するための助成事業を創設しました。

<支部への助成>

令和4年1月から令和5年12月の間に下記の取り組みを行う支部に助成します。

- ・新規支部会員を増加させるための取り組みを行う支部
- ・支部開催行事へ参加者を増やすための取り組みを行う支部

- ・100周年記念式典開催に合わせて岐阜県内で会員交流会などを開催する支部 等

各支部事務局に同窓会活動活性化事業助成金交付要項を送付しますので、積極的な事業活用をお願いします。

<クラス・研究室・クラブ等OB会への助成>

令和4年1月～令和5年12月の間に開催するクラス・研究室・クラブ等の会合（参加者15名以上）において、支部活動の紹介と加入案内を行ったOB・OG会に助成します。

開催終了後に集合写真等とともに会の概要を報告するなど、助成についての詳細を記した要項を送付します。助成を希望されるクラス・研究室・クラブ等OB会の代表者は同窓会事務局まで連絡をお願いします。

あしがき

各務同窓会の会員の皆様には、日頃より格別の御協力と御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日九月二十六日現在、岐阜県には非常事態宣言が発出されています。昨年二月頃からの長いコロナ禍が未だに続いています。皆様、お変わりございませんでしょうか？言うまでもなく、コロナ禍は世界を変えています。今まで何の不自由もなく可能だったことの多くが自粛や不可能となり、従来常識と考えられていたことが覆され、従来の日常が失われました。大学の講義・実験・実習もその例です。対面講義が当たり前だった時代は去り、オンライン講義などが主体になっています。実験実習はできる限り、三密を避けて対面で行うように工夫しています。そのため一日中、実験実習をすることもあります。また、学問の発展や研究者の交流の場として欠かさない学会活動も大きく様変わりしました。コロナ禍は、大学や学会の機能を破壊すると考えるとマイナスしかありませんが、オンラインによる大学の講義や学会開催などで、大学の発展・学問の発展・研究者の交流を活性化する新しい試み・努力が続いています。コロナ

禍後はW I T H コロナの時代と言われ、従来の大学の講義・実験・実習の形態と、コロナ禍で構築したそれらの新しい形態が融合発展し、新しい世界になることをプラスの面から大いに期待したいと考えます。そう考えると、二年連続で中止を余儀なくされている各務同窓会代表委員会（岐阜で現地開催）も、オンライン開催はもちろん、それだけではなく、現地開催（岐阜）とオンラインとを同時に結んだ全国規模での開催なども将来的には可能かもしれません。各支部等の同窓会開催なども同様に新しい形態が誕生する可能性はあります。W I T H コロナの時代に、伝統ある各務同窓会の会員の皆様、共有できる交流活動の場を、今後どのように設計・発展していくか？さまざまな工夫が必要と考えます。さて、皆様も御存じのように、二〇二三年六月には、学部創立一〇〇周年を迎えるにあたり、記念事業のための募金活動中です。どうか、なお一層の皆様の御協力と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

文責：長岡 利（同窓会幹事）



寄附金のお願いについて



平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続していきますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました1ヶ月程あとに、岐阜大学（研究推進部）より、振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

申込書の記入方法

* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第102号

令和3年11月30日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL (058) 293-3411 FAX (058) 293-2841
振替 00820-9-12742
<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/>
e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

詳しくはこちらを確認してください。

別紙様式1号（第3条関係）

国立大学法人東海国立大学機構 機構長 殿

【申込書】

住所氏名を記入し、押印してください。

金額を記入してください。

備考欄も記入してください。

寄附金額	金 円
寄附者	氏 名
住所	〒
フリガナ	氏 名
印	
寄附目的	記
（該当するものの左側に○をしてください。）	
学生（教育）支援	部局名： 岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金
大学（部局）支援	部局名： 岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金
その他（右に具体的に記入ください。）	部局名：
備考	についてご記入ください。 卒 科 卒 回（卒年） 第 回（昭和・平成・令和 年 卒・修）

注）備考欄には、条件（簡単な研究報告が必要など）、分割納付の必要などがあれば記入してください。
2. 研究助成金の場合、決定通知等を添付してください。

納入依頼書 送付先住所：
送付先情報（企業・団体などの場合） 担当部署：
担当者名：
電話番号・E-mail：